

現代				近代				近世																																																					
平成		昭和		大正		明治		江戸																																																					
2011	2007	2004	1999	1995	1991	1982	1964	1946	1945	1941	1937	1923	1914	1904	1899	1898	1894	1889	1875	1872	1871	1868	1853	1853	1803	1702																																			
東日本大震災が起こる		能登半島地震が起こる(震度六強 M六・九)		中能登農道橋「ツインブリッジのと」開通		阪神・淡路大震災が起こる(震度七 M七・三)		JR七尾線が単線電化のと鉄道が営業開始		能登島大橋開通		東海道新幹線開通		東京オリンピック開催		日本国憲法を公布		太平洋戦争終戦		ポツダム宣言を受諾し、太平洋戦争が始まる		日中戦争が始まる		真珠湾攻撃をきっかけに、太平洋戦争が始まる		広島・長崎に原爆投下		関東大震災が起こる(震度六 M七・九)		第一次世界大戦が始まる		日露戦争が起こる		翌年、ポーツマス条約調印		七尾港が開港場となる		七尾鉄道工事が竣工し、七尾〜本津幡間が開通		七尾港が開港場となる		大日本帝国憲法を發布		日清戦争が起こる 翌年、下関条約に調印		加賀・能登が石川県となる		所口町を七尾町と正式決定		廢藩置県により七尾県がおかれる		五箇条の御誓文が出され、明治の新政府誕生		前田齊泰、能登を巡見		ペリー、浦賀に来航		伊能忠敬、能登沿岸を測量		七尾町を所口町へ正式決定	

江戸時代〜現代

幕末から明治へ 七尾の近代化 港・鉄道

前田齊泰、能登を巡見

13代加賀藩主・前田齊泰が1853年4月、能登の海岸を防備するための施設を巡見した。その時、齊泰一行1900人が通行した「殿様道」が現在も残っている。



殿様道 (中島町奥吉田・笠師)

七尾港が開港場となる

七尾港は、明治30年に貿易港に指定され、明治32年には開港場、外国貿易港に指定された。外国との貿易を行うことができるようになり、日本海沿岸の新潟、伏木、敦賀などの諸港とともに重要性を増した。

シベリア鉄道が延伸した際、ユーラシア大陸の玄関口となるウラジオストク(ロシア)と結ぶ航路を開き、七尾港の繁栄が期待された。外国との貿易が盛んになったことが要因で、七尾鉄道の開通へとつながる。



七尾町真景図 (昭和2年)

七尾鉄道工事が竣工し、七尾〜本津幡間が開通

明治31年4月に七尾―津幡間(今の本津幡駅)、貨物線の七尾―矢田新間が開通した。

国が工事を行う北陸線(今の北陸本線)は同年4月に小松―金沢間、11月に金沢―高岡間が延伸され、津幡駅ができたが、七尾鉄道とは接続されなかった。不便を解消すべく北陸線と七尾鉄道を結ぶ2・9キロメートルの工事が行われ、明治33年8月に北陸線と七尾線がつながった。明治40年、鉄道国有法により七尾鉄道は国営(国有鉄道)になった。

大正14年には和倉駅まで延伸され、七尾駅は本府中町から現在の御祓町に移された。七尾駅直前で線路が大きなカーブを描いているのは、このときの名残である。その後、昭和3年に能登中島駅、同7年に穴水駅、同10年に輪島駅まで延伸され、七尾線全線が開通した。蒸気機関車(SL)は、昭和49年を最後に七尾線から姿を消したが、昭和63年から平成3年までの4年間、2月に「SLときめき号」として復活、七尾線にしばしの雄姿を現した。

JR七尾線が単線電化、のと鉄道が営業開始

平成3年9月に和倉温泉駅まで単線電化され、大阪と名古屋への特急列車の直通運転が開始された。

海岸防備の必要に迫られた加賀藩は、ヨーロッパから7隻の艦船を購入し、1862年、七尾港に七尾軍艦所(矢田新町)を設けた。明治に入ってから、軍艦所内には語学教師・オズボーンを招いて七尾語学所を開設。タカジニアスターゼを初めてつくり出した高峰讓吉も、短期間ではあったが在学していた。